

一人親世帯と二人親世帯に区別を置かない社会政策の理論的検討

—マーサ・ファインマンの議論の検討を通じて—

○ 首都大学東京 氏名 高西 圭太 (8734)

キーワード3つ：一人親世帯、ファインマン、必要

1. 研究目的

90年代以降、アカデミックな世界において一人親世帯の貧困が問題視され始め、とくに母子世帯の場合にはワーキング・プアの状態にあることが問題視されてきた。その背景には、母子世帯の世帯所得の低さと母子世帯に対する政策が就労支援に傾いていることの二点が挙げられ、これまでの研究では母子世帯に対して特別な所得保障や社会的サービスが提供されるべきことが示唆されてきた。

しかし一方で、母子世帯に対する特別な政策では母子世帯に対するモラルバッシングや偏見が強化されるおそれがある。そこで近年一人親世帯や二人親世帯といった世帯類型に関係なく、子どもを有する全ての世帯に対して所得を保障し社会的サービスを提供するという構想が提唱され始めてきた。

だが、こうした一人親世帯と二人親世帯に区別を置かない社会政策に関する議論は一人親世帯や未婚のカップルの増加といった社会の実態に合わせて主張されたものといえ、その理論的な特徴が十分に検討されてきたとはいえない。

そこで本研究では、近年提唱され始めた一人親世帯と二人親世帯に区別を置かない社会政策の理論的特徴を明らかにすることを研究目的とする。

2. 研究の視点および方法

本研究では社会政策が前提とする「家族」の捉え方を一つ視点として定める。これまでの社会政策では「家族」といった時に、それは婚姻関係を結んだ男女とその子からなる核家族を意味することが多かった。一人親世帯と二人親世帯に区別を置かない社会政策ではこうした家族と離婚や配偶者の死別を経験した家族や未婚の母親とその子からなる家族などの間に区別を置かない。したがって、一人親世帯と二人親世帯に区別を置かない社会政策を理論的に検討しようとする本研究が「家族」の捉え方に注目するのは必然であろう。

研究方法としては、研究間の比較という形をとっている。近年社会政策に関する研究に多大な影響を与えた研究者としてエスピン-アンデルセンの名前が挙げられる。本研究ではまず彼の研究を子細に検討する事でこれまでの社会政策が前提としてきた家族モデルを明らかにする。次に注目するのがアメリカのフェミニスト法学者、マーサ・アルバートソン・ファインマンの議論である。彼女の議論はアメリカで TANF を受給する母子世帯がスティグ

マを受けずにかつ貧困にも陥らないようにするにはどうしたらよいかを考察したものであり、独特の政策モデルを提出したことでよく知られている。彼女の議論を年代順に追い、彼女の提出したモデルを正確に図示することで、一人親世帯と二人親世帯に区別を置かない社会政策が前提とする家族モデルを導出する。こうして浮き彫りにされた二つのモデル—エスピン-アンデルセンの研究から導出されるモデルとマーサ・ファインマンの議論から導出されるモデル—を比較対照することで、一人親世帯と二人親世帯に区別を置かない社会政策の理論的特徴を明らかにするという方法を本研究はとっている。

3. 倫理的配慮

本研究は文献研究であり、日本社会福祉学会が定める「研究倫理指針」を遵守する。

4. 研究結果

研究の結果、これまでの社会政策は婚姻関係を結んだ男女とその子からなる核家族を「家族」として想定し、その上で家族内の夫の立場にある者に対しては脱商品化を妻の立場にある者に対しては脱家族化を施すことを理論上目指していた事が明らかにされる。また、一人親世帯と二人親世帯に区別を置かない社会政策に関しては、ケアの受け手とケアの担い手からなる一つの単位を「家族」とみなし、その上でその一つの単位全体の生活の保障を理論上目指している事が明らかにされる。

両者の理論モデルについては当日配布の資料に図示する予定なので参照されたい。

5. 考察

本研究では上記のようなこれまでの社会政策と一人親世帯と二人親世帯に区別を置かない社会政策の理論上の違いがなぜ生まれてくるのかを分析結果から考察している。先行研究によるとこれまでの社会政策は「選好 **preference**」を鍵概念として理論モデルが作られることが多かった。そのため、家族内の成員に対して働くかケアを担うかという選好を保障することを理論上目指すものとなってきた。それに対して、一人親世帯と二人親世帯に区別を置かない社会政策では、「必要 **need**」を鍵概念として理論モデルが作られたものとなっている。そのため、ケアの担い手とケアの受け手からなる単位全体の必要を満たすことを主眼とした社会政策に理論上なっている。

このように「選好」と「必要」という鍵概念の違いから、これまでの社会政策と一人親世帯と二人親世帯に区別を置かない社会政策の理論上の違いが生み出されていると本研究では結論づけている。